

資料室だより 101

+CodiceVEcap759; Verona, BibliotecaCapitolare

UT Orpheus から Musica Sacra のシリーズとして上記の楽譜集を購入しました。いわゆる Urtext 版です。15 世紀の多声宗教声楽曲を 89 曲所収する、ヴェローナ写本をそのまま現代譜に校訂したもの。ほとんどが作者不詳のまま伝わっています。これから作曲者が同定される可能性もありますが。わかっている作曲者は Ockeghem, Berbingant, Martini, Tictoris, Congeri, Brocus, Quadris, Marcus, Dufay, Josquin des Pres のみです。オケゲム、ティンクトーリス、デュファイ、ジョスカン・デ・プレなどの名は皆さんにも親しみがあるかと思います。ちなみに私は個人的にはクワドリヌに興味があります。校訂報告には他写本との参照、他校訂楽譜の参照、オリジナルの記譜についての情報が載っています。デュファイが 1 曲だけありますが、タイトルがなくテキストもなく音符だけです。しかし他写本との参照から、曲名がアイデンティファイされます。最後の 97 ヴェルソはジョスカンの Salve regina の cantus のパートしかありません。他との参照で Salve regina であることは明らかですが、なぜか Ascendoad Patremmeum というタイトルがついています。これは私には謎で、校訂報告を見てもわかりませんでした。ジョスカンやデュファイのようなメジャーな作曲家は複数の写本が残りますし、ほとんどの曲は現代譜で読むことができます。しかしこのヴェローナ写本に所収されているのはこの写本にしか載っていない、作者不詳の楽曲がほとんどです。ですからどうぞジョスカンたち、フランドル楽派の大作曲家と同時代に生きた他の無名の作品にも目を向けてみてください。例えば、1 曲目は 3 声の Regina coeli, 2 曲目は 2 声の Crucifixus surrexit いずれも短いのでルネサンス時代の音楽スタイルを学ぶためにもよいと思います。

+Planicky, J.A.: Opella Ecclesiastica

この作曲家の名をご存知のかたはほとんどいないかと思われます。1691 年生まれで 1732 年に没しており（つまりバロック時代の様式）、チェコで大変活躍した人です。イエズス会修道院、神学院、また宮廷と関係を持ちながらすぐれた作品を発表し続けたことはわかっているのですが作品が残っていません。唯一残されたのが、ここに紹介する「教会音楽作品集」です。Musica Antiqua Boemica のシリーズで出版されております。このシリーズは資料室の 2 階に長く眠っておりましたが、この資料室の収書方針に合うものだけを残し、後は廃棄したのをきっかけに、残された楽譜に関してましては皆さんの利用を促すべくご紹介しています。テキストはラテン語で、ソロ、あるいは二重唱に、伴奏楽器はヴァイオリンと通奏低音ですので取り組みやすいのではないのでしょうか？ 東欧のカトリックの深い伝統に根ざした教会音楽です。是非、手にとってごらんください。
杉本ゆり記